

事例6 牧草作付けによる農地の適正管理

深浦町 東野

協定面積 田25ha 協定参加者数 20人

- 東野集落では、集落内農業従事者の高齢化が急速に進んでおり、耕作放棄地の増加が懸念されています。
- 平成12年度に、集落ぐるみで農地を管理し、耕作放棄地を未然に防ぐことを目的とした集落協定を締結しました。協定の目玉として、転作作物の牧草を集落全体で作付けすることにしました。
- 現在では、協定農地の約8割に牧草（オーチャードグラス）を作付けし、町内畜産農家へ供給できる体制作りを進めています。
さらに、農道や畦畔の一斉草刈り等の共同活動に加え、交付金を利用して、揚水ポンプ場を修理したほか、水路等の補修を行うための重機を購入しました。
- 今後は、ロールベアを導入して牧草の供給体制を確立していくことにしています。



転作作物として牧草を作付け